

グイマツ雑種F₁のさし木増殖法



さし付け直前の台木の状態



さし付け直後の状態（6月中旬）



さし付け3カ月後の状態（9月中旬）



掘取り選苗したさし木苗（12月上旬）

グイマツ雑種F₁苗木の供給不足を補い、さらに「グリーン」等の優良品種の増殖法としても期待できる「さし木法」を紹介します。

この方法の最大の特徴は、さし穂台木として播種後2年目の若い苗木を用いる点にあります。より古い台木と比べ、発根率は95%前後と極めて高く、さし穂台木による歩留まりの違いもほとんどありません。台木1本から10本以上の苗を得ることができます。

現在、北海道山林種苗協同組合と共同で実用化試験を進めています。平成9年度の実績では、さし穂台木1,252本から15,360本の枝をさし付け、13,560本のさし木苗を得ています。今後、山出し時での得苗率の向上や養成費のコストダウンにつながる試験を行います。

（育種科）